令和元年　決算特別委員会3日目【民生費】

↓↓↓質疑応答↓↓↓

【松澤質問】

しながわネウボラネットワークのネウボラとは、妊娠時より育児まで切れ目のない支援、相談を保健師などが応じる仕組みと認識しているが、簡単にこの事業の説明を。

【崎村児童相談担当課長答弁】

委員からあったように、妊娠、出産、育児の切れ目のない支援を図るといった所で、子どもを安心して産み、育てる事ができるよう、仕組みを整えている。

事業の中身としては、妊娠期においては、妊産婦のネウボラ相談、出産後においては、子育てネウボラ相談を行い、子ども育成課においては、産後の家事育児支援のヘルパー等の利用助成のほかに、健康センターでは産後ケア事業などを行っている。

【松澤質問】

品川区では、今年から三ツ木、水神、ゆたか、旗の台に相談員を増員、全部で9か所の児童センターで運営しているとあり、私自身素晴らしい事業だと思っている。

そこで、現在ネウボラネットワークを利用している方は何名ほどいて、相談員は何人いますか。

【崎村児童相談担当課長答弁】

平成30年については、5館において合計1,101件の方が子育てネウボラ相談されており、25の児童センターで子育て相談を受けているが、だいたい2,300件ですので、約半数が利用している。

人数については、保育園で働いた方や幼稚園教諭、保健師、看護師の資格をお持ちの方などがネウボラ相談員として働いている。

【松澤質問】

利用者が増えていると言う認識でよろしいか。

それと、助成内容を拡大と書いてあったがどんな助成内容なのか。

【崎村児童相談担当課長答弁】

平成28年度から事業を開始し大体1,100件ほどで、平成29年度が1,200件、30年度は1,100件である。

今年度は相談員を増やしたところもあるので、5カ月の段階であるが700件ほどの相談を受けて、相談件数は増加していると言えない状況である。

助成内容の拡大については、平成30年度、助成金額を1,000円から2,000円に拡大したほか、産前の家事育児支援のどのようなサービスを利用したいかプランニングを行うようになるが、プランニングを1回1,000円助成したり、多胎出産された方については、利用時間の制限を20時間ではなく40時間に拡大した。

【松澤質問】

丁寧なご説明ありがとうございます。

今後の課題の中に、事業認知度の向上と書いてあるが、私もＨＰを拝見しましたが、寂しいかなと感じました。

他の自治体のＨＰを調べると、やっているないありますが、大々的にネウボラを宣伝している自治体もあり、今後品川区としてＰＲの考えがあるのか。

【崎村児童相談担当課長答弁】

認知度の向上と言う部分で、開催していない場所へ相談員を巡回し、周知を広げる。

また、3保険センターの親子のつどいと言う所でも相談員が出かけ周知を行うなど、認知度向上に向け今後も務めて参る。

【松澤質問】

ネウボラ相談により虐待の防止にも繋がり、とても良い施策だと感じている。

子どもの保護、治療などの事後ケア、予算をどちらにかけるべきかとの研究において、予防に倍額の予算を投じた結果、総支出が減ったとあり、これは高齢者問題にも通じると思うが予防施策が大切になると思う。

そういった意味でも拡充を望み周知の徹底を要望して次の質問へ移ります。

次に高齢者クラブ支援事業、現在114クラブに3,600万円余とあり、大体1クラブに32万の助成となります。

少し少ないのではないかとの声が多くのクラブよりありますが、区のご見解をお聞かせ下さい。

【宮尾高齢者地域支援課長答弁】

確かに個々に金額の大小の相談を頂くこともあります。

例えば、使い道の相談やクラブの運営全体にかかわる相談に発展する場合がある。その中で入ってくる区の助成金、そして会費の課題という事でいかに会費徴収をしっかりと確保するか、そういった相談も適宜乗らせて頂いておる。

一方で、必ずしも全てのクラブが資金不足と言う事でもなく、全体として現行の水準で十分やっていけると言うのが私ども認識である。

【松澤質問】

昨年の議事録の中でもこのお話はありました。

そこで全国老人クラブ連合会【全老連】に対するアンケートの中で、加入が増えない理由として、就労している人が多い、趣味が多くクラブには参加できない。また、活動内容がわからないなど。

課題としてはやはり会員の高齢化、役員のなり手不足。役員になってしまうともう逃げられないのではないかと言う恐れがあると記載がある。

そうしたクラブの問題点を解決しなければ助成金が増えた所で、運営していけないと言う団体もあると思う。

昨日、町会加入支援の関係でも質問したが、高齢者クラブ加入についても区としてやられている支援はあるのか。

【宮尾高齢者地域支援課長答弁】

会員をいかにしっかりと確保していくのかは共通の課題と認識している。

毎年、会員状況月間を設け、その間に特に力を入れ私ども区も一緒に知恵を絞り対策をとっている。

一番大事なのは、会員を伸ばしているクラブの対策を参考に勉強して参る。